

大学における学習環境の整備

—法学資料室の地下拡充移転をとおして—

隈本 守

法学資料室では Renovation2016 として、二〇一六年九月に、それまで大学五号館一階に設置されていた資料室を、地下一階全面に拡充移転した。前号ではこの法学資料室の概略を紹介したが、今回はこの拡充移転の経緯から、大学の学習環境の整備について考えてみたい。

最近、国内外を問わず、大学、図書館では学習環境の整備としてアクティブラーニングエリアやラーニングコモンズなどの整備が進められている。拡充移転のために視察をした中でワシントン大学のラーニングコモンズなどでは、施設・設備について利用者の立場で十分な検討がされたようで、サポート環境も充実しており、多様な使い方に対応する施設となっていた。一方、ラーニングコモンズとは何か、と考えさせられたのは、カリフォル

ニア大学バークレー校やスタンフォード大学など多くのローライブラリー（法律図書館）の入口にあったソファや喫茶スペースである。ここでは様々な分野の法学を学び、研究する多様な視点をもった学生・院生・教員がとくにはローライブラリアンとともに時々の社会問題について話しをしたり、意見・考えを交換し、新しい視点などを得たりする場所となっていた。実はこのような場所こそが法学学習環境におけるラーニングコモンズとなっているとも言える。そう考えると、まったく別の施設のように見える場所であっても、その施設がどのような利用を想定して整備されたかによって、利用者にとつての施設の位置づけ、使われ方は大きく異なり、逆に見た目には同じように見える施設であってもこの想定が曖昧で

みると、利用者にとっては使いにくい施設になることとなる。この視点から今回の法学資料室地下拡充移転を見てみるとどうであろうか。移転に際し構想、検討・議論されたことや経緯などを振り返りつつ現在の資料室を見てみる。

五号館地下に降りると、全面に資料室が広がる。右手半分には透明のガラスにより仕切られたコンパクトスタックエリア（集密書架）があり、左手には新しい学習スペースとしてのミーティングルームや新着雑誌等を見ながら話ができるブラウジングエリアなどが見える。まずこの地下全面を使った資料室の半分を占める電動集密書架エリアの整備については、法情報電子化し、冊子体資料は図書館へ集約化が進む時代に逆行するようにも見えるが、「法情報の電子化はまだ過渡期ではないか」、「学習環境としての冊子体資料の意義は」など慎重に検討し、その上で資料の発行終了、受入停止等、継続資料受入減少の要素を考慮し、現在はまだ今後三〇年程度の資料の増加に対応する所蔵冊数約一〇万冊程度の書架を整備することこそが必要であると判断した。この資料保存のために必要となった湿度対策のガラスの仕切りについては「通常の安価な壁でもよいのではないか」との指

摘があった。この指摘に対して、透明な仕切りで一室の資料室とするのは「学習に際しこれを確認・利用することが求められる法情報というものが、累々とした歴史、考えの上に積み上げられたものであることがひと目で伝わるようにすること」と、「議論、プレゼンテーションなどに対応する新しい施設、環境を備えること」は、学習環境の両輪として必要なことであり、この双方に対応する施設であることを視覚的に伝えるためには不可欠であると考え、整備された。

左手には各種閲覧スペースなどがある。今回、会議・議論が出来る場所も必要としてスタディールームなどを整備したが、全体としては判例や論文などを読み込み、まとめる静穏な環境が求められていることに変わりはない。このため床を黒系で、テーブルトップ、書架などを落ち着いた白木調で統一し、また椅子も長時間の学習・研究にも疲れにくいものとし、あわせてホテルのロビーにあるようなテーブルランプなどを置くことにより、静かに利用する場所であることが利用者にも自ずと伝わるようにと考えた。

静穏な環境としては一番奥に、吸音性が高いパーティションで囲まれた個人学習・研究スペース（キャレル）

を整備した。その手前にデスク上に個人用の仕切りがあり比較的静かに集中出来る閲覧デスク、さらにそのとなりには、時には小声で話しもできる大きな閲覧デスクを整備し、利用者の多様なニーズに対応するようにした。

新しい法学学習スタイルを提案する施設としては、スタディールーム1、2とミーティングルーム等を整備している。この三室は予算上、アクティブラーニングの予算により整備されたものであるが、元来資料室では、一人で図書・判例・論文などの資料を集め、読み込み、さらに新しい資料を探し、自身の意見をまとめ、論文やレポートを作成する、あるいは発表・プレゼンテーションをおこない、また議論において他の意見を聞いて、自身の意見を主張するという法学の手法全体が静かに行われるアクティブなものと捉えていた。そこで、この三室には議論に消極的な利用者の参加・発言を促す仕組みを持つ機材や、一人でも考えを視覚的に整理し、あるいはプレゼンテーションの練習をするための機材などを整備している。

スタディールーム1に整備したインタラクティブホワイトボードは他の二室のインタラクティブシステムにも共通する基本的なものであるが、議論の際に、考え方を

視覚的に整理し・まとめ、また発表の練習などにも活用できるデジタルホワイトボードである。このホワイトボードでは、書かれたものの移動、拡大縮小などの操作が可能であり、複数のページの画面の移動・コピー再利用・保存などが可能となっており、また接続されるパソコンに表示されるものをプロジェクトのように表示できる機能を持つことから、パワーポイントなどのデータを表示し、議論しながら操作することも出来る。

スタディールーム2には「アノトシステム」と呼ばれる仕組みを使ったインタラクティブホワイトボードを導入している。この機材では通常のインタラクティブホワイトボードの機能に加えて、議論の参加者が席に座ったままでも手元の紙に書くものがリアルタイムにホワイトボードに表示され、より視覚的に訴えかけ、これを司会者などが操作して議論を進めることができる仕組みにより、タブレットより直感的に参加できる設備となっており、この設備はまさに学習環境における試行的な試みとして導入されたものといえる。

三室目のミーティングルームにはハイテーブル、ハイチェアと合わせて「デスクトップインタラクティブプロジェクト」と呼ばれる機材を整備している。ここでは参

加者全員が目の前のテーブル天板上に投影されたホワイトボードやPC画面に、ペンではなく手で書込・操作が出来るが、ホワイトボードを囲むかたちで利用するため、自然に手を出して操作し、自分の意見・考えを視覚的に表現しつつ議論が出来る。これは法学以外でも一般に活用できるものと考ええる。この設備は視察した国内の大学の図書館にも整備例があったが、サポート環境の問題から利用が少ないと聞いていたため、使い方の紹介・サポートができる場所として資料室に整備したものである。

他にも新しい視点による学習環境として「ブラウジングエリア」と呼ぶ場所を整備している。ブラウジングとは、図書館などでは本の拾い読みを指すが、法学資料室のブラウジングエリアでは六百誌ほどの国内外の新着雑誌をあえて表紙が見えるように配架し、利用者が通常利用する資料以外のものにも関心を広げるような施設とした。またここでは資料のみならず、周辺にいる他分野の学生・研究者や、他の視点をもつ者との会話により視野を広げられる、「法学学習環境におけるラーニングコミュニティ」として機能するように、照明をやわらかい電球色のスポットライトにするなど寛いだ雰囲気的环境とした。ここでは人に聞くことの積極性が求められると同時に

に、人に対する配慮やふさわしい話し方、聞き方が求められる。しかし、このような話し方に慣れていない利用者もあり、資料室員がすぐ側にて積極的にサポートをすることを前提として整備した施設となっている。

ここまで法学資料室の地下拡充移転に際し、学習環境としての構想をもって整備をした施設などについて見てきたが、施設・機材以外に学習環境の重要な要素となるものが、その利用についてのサポートである。「いい施設・機材が整備されたがサポート環境がないため利用されない」という状況や、「いい施設・機材かも知れないが、ここで求められているものなのか」という点について、実際に運用し、利用をサポートする者の事前の検討が充分に行われていなかったために活かされない、ということもある。この観点から法学資料室の拡充移転においては、利用をサポートする立場の資料室員がその構想・検討の段階から参加できたことの意味は大きい。改修後、見学者などから「他の改修とは違う」、「どうしてこのような改修ができたのか」などの質問を受ける。この質問に対しては専門的知見を持つ業者などからの提案、その時代の標準的改修案に対して、運用者であり利用者でもある学部教員と、その研究学習をサポートする資料室が

一体となつて「法学資料室はいかにあるべきか、なぜそうあるべきか」を国内外の法律図書館などの視察を通して考え、情報提供・利用環境について細部まで独自に再検討を行い、これを元にした議論を経て整備されたため、といえるのではないだろうか。二〇一七年、一旦施設の改修段階は終わり、これからは資料・情報・機材・

場所の使い方を伝える、まさにサポートの改善の段階に入る。同時にここでは法学学習環境が、利用者のニーズ・資料・情報環境・機器の改良などにより日々変わり続けることに対応し、あえて変わらないこと¹⁾も含めて「変わり続ける資料室」であることが求められている。

(くまもと まもる・法学資料室)